

在学学生・卒業生

しょくうり

学習会「続瓜の会」

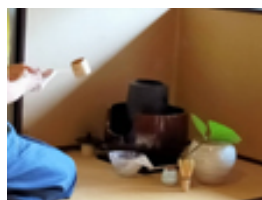
会員募集中!

会員募集中!

「続瓜の会」は、もっと歴史を学びたい、語りた、楽しみたい、という仲間が集まり、「史料を読み解く勉強会（月1回）」と「フィールドワーク（年2回程度）」の活動を行っています。現在はコロナ対策のため、zoom学習会が主となっています。これまで京都から遠く、参加が困難であった方も気軽に覗いてみて下さい。会費なし、会則なし、の気楽な会です。興味ある方の参加をお待ちしています!



2020.7.12 会員の方が経営する大津の和のお宿「粋世」の広間をお借りしての学習会。コロナで集えない中、久しぶりに感染対策をしてのリアル学習会でした。



学習会が終わった後は、いつものようにお茶会。この日は洗い茶巾のお点前。水差しの蓋は梶の葉

史料を通して昔日を思う — 史料を読み解く勉強会 —

ふしみのみやさだふさ かんもんにつき

現在は伏見宮貞成親王の『看聞日記』から少し離れ、同時代の満濟准后（三宝院満濟）の『満濟准后日記』を読み解いています。

ちょうど、応永35年／正長元年（1428）の辺りに取り掛かっているのですが、この年は幕府・朝廷共に重大な出来事が起こります。

1月に先の4代将軍足利義持が急死し（5代将軍義量は3年前に早世）、急遽3代「将軍」義満の出家していた子らから、籤引きでもって義円を6代将軍義教（将軍就任は翌年）とします。

7月には第101代称光天皇が跡継ぎのないまま崩御され、その跡を我らが貞成親王の子が継いで第102代後花園天皇として即位、伏見宮家の悲願を果たす件を読んでいます。

視点を変えてみることで、幕府と朝廷の双方に絶大な力を持っていた満濟が皇統の継承に果たす役割が読み取れるのと、幕府が朝廷をいかに支えているものかが知れて、とても面白いのではないかと考えます。

開催日：月後半の土日休（約1か月前に日を決定） 13:00～16:00

*当分の間はzoom学習会となります。

zoom参加は難しくありません。試しに覗いてみたい方も大歓迎です。
ご希望の方は下記サイトにご連絡下さい。

入会資格： 本学通信教育学部生、院生、卒業生

連絡先： 続瓜の会アドレス：syokuuri@yahoo.co.jp

会代表者： 中本道則（卒業生） 事務局：酒井健次（在学学生）

（入会希望者には会共有サイト閲覧用のパスワードをご案内します）